



•Tackle Guide

仕掛けは2本バリと3本バリがあるが、船長の話ではこのエリアでは3本バリ仕掛けをすめるとのこと。水中ライトも効果を発揮する場合はあるが、サメなどが掛かるようなら外すように。竿は誘い疲れしない全長2メートル前後が使いやすい。



▲オニカサゴは誘いも重要

潮が動いて食い始める

みなさんも後に続けと誘いに力が入ったもののノーシグナル。仕掛けを着底させても糸フケが全然出ないことから分かるように、潮がまった動いておらず魚の活性が低いのが原因なのだろう。上げ潮になる8時以降の状況好転に期待したが、8時を過ぎてしまったく潮が動く気配がない。



▲東伊豆のオニカサゴは潮が動けば期待大

私流のエサ付け

そんなオニカサゴを釣りに12月24日、釣友と東伊豆宇佐美港の直正丸を訪れた。前日に宿へ確認の連絡を入

ると、「エサはサバの切り身を用意しているけど、ほかに色いろと持ってきて」と島田正則船長に言われたことからサバの切り身、カタクチイワシ、サケのハラモ、ヒイカ、食紅で染めたイカなどを用意。はたしてどのエサで釣れるのかこのエサ選びもオニカサゴ釣りの楽しみの一つだ。



▲当日の大物賞は1.6キロのカンコ

の位置でステイしているとゴツゴツとした魚信が伝わってきたので大きく竿をあおって合わせを入れる。電動で巻き上げ始めるとゴンゴンとした抵抗はオニカサゴを思わせただが、リール途中で痛恨のバラシ。完全に食い込む前に早合わせをしたのが原因で、脳裏に「3度目の魚信で合わせろ」と言った船長の言葉が浮かぶ。それでも次なる魚信はすぐに訪れ「我慢、我慢」と言い聞かせてジツクリ食わせた後に合わせを入れるとガツンと竿がしなる。

抵抗も激しくかなり重かったが、巻き上げ途中から引き込みが弱くなりポツカリと海面に浮かび上がったのは浮き袋を膨らませた1.6キロのカンコだった。

気をよくして再投入するとすぐに魚信がきて、同じ要領で合わせを入れると同様の抵抗を見せる。またカンコかな？ と思っただけで常には抵抗してくるとも思わなかった。予想どおり海面を割ったのは1.2キロのオニカサゴだった。すると「後ろでもオニが上がったよ」と言う船長の言葉に右舷トモに行くと言田さんが小型のオニカサゴを釣り上げていた。その写真撮りをしているとき、「鈴木さんの竿にアタつてるよ」と船長。席に戻って合わせを入れると今度はかなりの重量感。「しめしめ3連チャン」とニマニマしながら巻き上げたのだが、上がってきたのはツノザメでガツカリ。

●船宿information

東伊豆宇佐美港

直正丸

☎080-1569-3405

(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=オニカサゴ乗合一人1万3000円(エサ、水付き)

▶備考=出船6時、12時沖揚がり。無料駐車場あり。ほかアカムツへも出船

「これまでこんな経験はないよ」と船長が言うほど一日を通して潮が動かなかった。オニカサゴの釣果は思わしくなかったが、通常ならば1キロオーバーのオニカサゴが4〜5尾は釣れるエリアだけに今後に期待したい。ちなみに今回私にヒットしたエサはすべてヒイカだった。



▲ゲストが豊富なのも楽しい

東伊豆のオニカサゴ好期

●東伊豆宇佐美港発↓川奈→初島沖

本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshitaka Suzuki

リスクは少ないようだ。オニカサゴの釣り方は着底して糸フケを取ったら50センチ巻き上げ、そこからゆっくりと竿を頭上までリフトしてステイ。その後にゆっくると誘い落としてステイ。この動作を2〜4度繰り返したらさらにもう50センチ巻き上げて同じ誘いを繰り返す。アタリがなければ海底まで仕掛けを落とし底ダチを取り直す。この繰り返しの潮の流れが速ければ低め、緩ければ高め、タナ取りが基本になる。



▲左からサケとヒイカ、イワシとイカ、サバとサケ

オニカサゴは動くものに反応する傾向があり、ヒラヒラとしたエサにパクツと食い付いてくる。なので誘い上げるときも誘い落とすときもこのヒラヒラ効果を演出するように心がけるといいだろう。ちなみにエサ付けはアピール度の高いものとエサ持ちの

いいものの抱き合わせが私流で、ヒイカにサケのハラモ、カタクチイワシにイカといった組み合わせで様子を見る作戦だ。さっそく右舷胸の間の佐藤さんに魚信が到来して合わせを入れると見事にヒット。ゴンゴンと竿先をたたくさまはオニカサゴらしい抵抗だったのだが、巻き上げ途中でフツと重みが消えてしまった。佐藤さんのファーストヒットはあえなくスッポ抜けとな

知得! 刺されたときの対処法

帰港後にオニカサゴを撮影したとき、うっかり足の上に落としたりトゲが長靴を突き破って親指にブスリ。すぐに血を絞り出したのが、直後にスキンスキンとした痛みが。そこで、急いで自動販売機でホットのお茶を購入して刺されたところに注いだら30分もしないうちに痛みも取れ、腫れもしなかった。ポットのある船もあるの、もし船上で刺されたら火傷しない程度のお湯をかけることをおすすめします。

▶オニカサゴのトゲには要注意

▲患部を45度前後のお湯に浸けるとタンパク質が固まり毒性が抑えられるとされている